

2018
(430)
長男 9/28
40
-304-
キノコネソウ

右馬元だじり

松茸の香り 際立つ山の宿

思わず 575 の並ぶ程 見事な松茸を
毎日 採って来る 允に 私達=人は 虫くじり
越え 啞然と して 見つめるばかりです。 金木犀の
香りはじめたと同時に 松茸の 食卓に 上がるという
事も 確定です。 思いながら トイレの
お掃除を して いました。 息子も 勇んで 早朝 出か
て います。 いつ バランスを 失って 谷底に 落ちるの
いつ 熊に 出合うか という ころに 採集に 来る 訳です
が 採れると その 喜びに 絶大な 山の 一切の 恐怖を
拭い去ると いう ふうです。 28日は 11時 くらいに
急転車の サイレンや ヘリコプター の パタパタ 飛び 急い
音の 賑やかさ。 なにか あったなと 思いました。 外
息子は もう 帰って いて 目の 前に 居る。 干渉に なる
茅野 の 方から 事の 狩りに 来た いた 人の うちの 1人
が 滑落死した 事か 解りました。 我が子 たち は
そんな 事には ならぬ ため と言われ たいと 祈ります。

庭の 栗の 元身は ほぼ 落ちて くる 9月の 前半は
栗に 脅迫 されている ような 日々を 過ごす 訳です。 今
年は 長男の お嫁さんや 可愛い 盛り の 光ケンや
歩華ちゃんか よく 拾いに 来て くれて お陰です。
私か お嫁に 来た 頃は 白髪大臣 という 大きな 毛虫か
ついて 虫食いの 多い 栗でした。 今 その 毛虫も
ほとんど いなくなつて きいた な いい 栗か。 落ちて 来て
栗の 茶巾 絞リや 渋皮 煮も いい 感じに 出来る よう
に なつて 来ました。 友子母の 口癖で この 栗は 「本当は
おいしいの。 味も いいのよ」と いう ながら 今年も
熱心な 拾っては 栗の 実を えぐり 出して くれました。
庭の 栗の 拾え 山には 松茸も ある。 私たちは
この お恵みに 感謝して 日々 精進 して 行く
べから いると ちよと 草臥れた 精神。 肉体に ムチ 打ち
ながら ヨレヨレと やつて います。 お若い 人に 任せ
ると だてと 悟りの 境地 不す。
私たちの 三人の 子は 狩猟 姉兄弟 たちと
感じます。 川の 恵み。 山の 恵みを 頂戴し 生かす
ことと 身に つけた ようです。 正介さんの 生き方と 学んで
いるのか 上手に 使いこなしている ように 思えます。
有り難い 事と 感じ ています。 元のお店にも 元自身
採った 山の 茸の テーブルに 並ぶ 喜びは ばれて いる ようです。
うれしい です。